

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	ダクシオンプロジェクト	
代表者名	二階堂真悟	
連絡先 TEL : 090-1066-8164 FAX : 050-3588-1152	E-mail : ductionproject@gmail.com	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	アフターコロナの小学生の非認知能力を育む、表現活動 & 言語化ワークショップのプログラム制作
事業の目的	2020 年から 2022 年にかけて、新型コロナウイルス感染防止処置により、小学生は学年を跨いだ活動や、他のクラスとの活動機会などがなくなりました。 また、地域のお祭りや行事など、地域住民と児童が交流できる場もなくなり、年齢や生活環境が異なる他者と接する機会も少なくなっていました。 従って、このような状況では「他者と自分の感性や特性が違うこと」を感じ取り、受け入れる機会が失われていると言えます。 その結果、自制心や理性、判断力や協調性、創造性などを総称した『非認知機能』を私生活・学校生活の中で獲得できなかった児童が、思春期が始まる小学 3~4 年を境に集団生活に馴染めなくなり、授業を受けなかったり、すぐ暴力を振るうなどの影響が出始めています。 以上のことから、児童が「自分と他者」の違いに触れ、受け入れることを学ぶために、学校で一番気軽に触れられる表現物である図書館の「本」を読み、他人と感想をシェアすることを児童が主体に行うことを目的としました。

事業の具体的内容	本事業では、アフターコロナ時代における小学生の非認知能力の育成を目的に、「表現活動」と「言語化体験」を組み合わせた下記3つのプログラムを栗原市の築館小学校にて実施しました。 1.当団体のキャラクターである本のヒーロー「輝望閃詩ダクシオン」による、絵本を題材にしたヒーローショーを上演。以後、定期的に訪問することを伝え、図書室利用を促す。 2. 劇団の協力を得て、県内の小学校で使用されている教科書にも掲載されている宮沢賢治の名作『注文の多い料理店』を演劇化。 観劇したものと読んだものの違いを言語化してもらい理解を深める。 3. 劇団の協力を得て、絵本を題材にした対話型ワークショップ「あらしのよるに」を開催。ミニ演劇にて他者と違いを視覚的に理解した後、ワークショップにて言葉を使わないコミュニケーションを体験し、日常に生かしてもらう。 これらはすべて図書室との連携で行われ、児童が本に親しみながら社会性を身につけるようデザインされています。
活動の開始から完了までの流れ	活動は2024年5月の「ダクシオンヒーローショー」から始まりました。【参加児童数：188人】 築館小学校の体育館で実施されたこのショーは、図書館にある絵本を題材とし、図書室への関心を高める導入イベントとして好評を博し、観劇した児童からは直筆の感想も寄せられました。 子どもたちはヒーローへの声援を通じて、集団での感情表現や応援という他者との関わり方を体験しました。 その後は、6月から定期的に図書室を訪問し、読み聞かせや紙芝居、言葉遊び（例：「ダジャレ王はだれじゃ？」）を実施しました。 9月以降は「本の帯をつくろう！」企画を通して、読後の感想を言語化し、他者に伝える力を育てました。 1月14日には、宮沢賢治の名作『注文の多い料理店』を観劇。観劇を通して物語の構造理解や創造的想像力を養いました。【参加児童数：102人】

	2月4日には、対話型ワークショップ「あらしのよるに」を開催。【参加児童数：99人】 子どもたちは登場人物の気持ちを自分なりに考え、発表し合う中で、他者の視点に立つ力や自己表現の重要性を学びました。 いずれも読書を起点とし、児童の主体的な関わりと感性を引き出す工夫を重ねながら進行了ました。 活動は段階的に深まり、最終的には子どもたち自身が読み聞かせを企画するなど、自発性が育まれる形で完了を迎えました。
活動の成果と教訓	活動を通じて、児童の非認知能力の成長が随所に見られました。 初回のヒーローショーでは一方的な受け手だった子どもたちが、読み聞かせや帯づくり企画を通して自ら発信者へと成長していく様子が観察されました。 特に「本の帯づくり」では、自分の言葉で作品を紹介するという経験を通して、言語能力のみならず、要約力や感情の整理・表現といった多面的な力が育まれました。 一方で、機材トラブルや当初想定していなかった学年の積極的参加（低学年など）により、柔軟な対応が求められる場面もありました。 こうした経験から、企画の設計段階で多様な参加者層を想定し、複数のアプローチ方法を用意することの重要性が明らかになりました。 また、図書室のスタッフや教員との連携を深めることで、活動の幅や深さが一層増したことも大きな収穫です。
今後の展望など	令和7年度は、今年度の成果をもとに、実施校の輪を広げていきます。 栗原市立築館小学校に加え、新たに登米市立佐沼小学校および利府町立利府第三小学校にて事業を展開し、プログラムの再現性と効果の検証を行います。 これにより、異なる地域や教育環境における有効性を検証し、より汎用性の高いモデルとして整備を進めます。 また、事業の持続可能性を高めるために、寄付窓口の整備にも着手します。 市民や企業からの支援を受け入れる体制を構築し、地域に根差した協働の仕組みを強化していきます。

	さらに、演劇・読書・言語化を組み合わせた独自の教育アプローチを、将来的には地域外にも展開できるよう、マニュアル化や人材育成も視野に入れています。 これらを通じて、子どもたちが「自分と他者の違い」を受け入れ、多様性を尊重しながら共に学び合う社会の実現を目指します。
--	---

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	500,000	
団体資金より支出	10,259	
合計	510,259	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
劇団への上演協力費用 謝金	上演協力費用 70 千円×2 回協力分 ※正式には1公演 30 万円ほど	140,000	150,000
劇団・当団体の上演に当たる音響・照明スタッフ外注費・機材費	140 千円×2 公演	280,000	275,000
交通費（仙台⇄栗原）	協力劇団 レンタカー及び 高速道路料金・給油代	35,000	35,929
劇団へのワークショップ協力謝金	ワークショップ（一回 30 名対象、ファシリテーターは 3 名）上演謝金	50,000	50,000
合計		505,000	510,259

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

1 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを 1 部郵送、データもメールでお送りください。

2 領収書のコピー（郵送）

3 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したもの）

*写真は 2, 3 枚報告書と一緒にデータにてお送りください。

その際、お子さんの画像は公開可のものをお送りください。



みんなが作った
本の帯作品発表!

[illegible][illegible][illegible]